

<今回>363回目 2025年1月13日(月)14時10分～17時 601会議室

読書は3冊目「盗まれた神話」朝日文庫版 p38 説話と史実の間 より

<前回>362回目(24-12-23)出席者8名

資料1)第361回(24-12-2)のまとめ(清水)

2)古事記神系譜

3)前原遺跡国史登録記事から、大宰府羅城図(高山)

A 報告 2024年最後の読書会になった。榛葉氏は所用、岡田氏は体調不良か、皆さん伝染病に気を付けて年の瀬を過ごしてください。

B 資料2) 古事記神系譜が見つかったので高山氏の日本書紀神系譜とあわせて菅野雅典氏作成の古事記神系譜を配布した。①②③の3枚に分けて関係図を書いている。古代人が自分たちの由来を失わないように物語と併せて、記録にとどめたものと解する。

3)前原遺跡の国史跡登録の新聞記事が12月20日付けで各紙に報道された。高山氏が大宰府防衛の施設として、羅城ではないか、との説を図面で分かり易く教えてくれた。志岐山城と近く、地形的に小水城など羅城とみなすこともできるなど議論が風発した。現在は住宅地となり、開発に伴う発掘であったが一部保存が決まって、国指定になったのは、古代史愛好家にとって幸いなことである。

読書 P33 第2章 不透明な霧

- 1) 不透明な霧 高句麗好太王の碑文と通説側の読み取り、日本書紀の神功皇后新羅接触譚と云うべき文章が、史料事実として併せて解釈されている。4世紀前半に半島中部奥深く侵入して、高句麗軍との激戦で壊滅した史料事実を近畿天皇家が九州まで支配していた証拠と解説した。
- 2) 最終の里程標 川副理論。記紀神話の数多くの神話説話の多くは史実ではない。という戦後史学の命題を極点まで押し詰めたのが川副武胤である。古事記は天才的な作者の創作であり、日本列島統一の史実を指すのは机上に想定されたもので、古事記は全くの文学作品で、歴史事実とは全く関係ない。
- 3) 津田左右吉氏は神武東征の説話は全く歴史事実と関係ない。皇室が「日」の神の子孫とされたため、「日」の字面に対して、イメージに合うように造作されたのだ。この方法を古事記に適応したのが川副理論だ。
- 4) その一例は、一言主は天皇を表す。①画数が同じ②左右対称③天の画数の第7画と一言主の第7画も同じ④天皇の文字は一大日王と分解して一言主と同じと。川副理論の命題は自明の命題になっている津田の方法を全面的に徹底化した事の一点である。
- 5) 古田氏は記紀に造作性が多いというのは4～6割ならまだ分かる。仁徳～雄略までの説話と倭の5王の記事を比べてみると、両者には全く共通点がない。神功皇后の新羅遠征説話は半島の血みどろの激突の史実とささやかな新羅接触譚(軍船威嚇)では造作と云う変形という言葉では肯けない。
- 6) 川副理論の卓越性 戦後各史学各派の説を神話を歴史と見なす立場を激しく攻撃している。記紀神話の完璧な切り離し、戦後史学の到達点を示す里程標となっている。

第363回 2025年1月27日 14時10分から17時まで 602会議室

第364回 2025年2月10日 14時10分から17時まで 602会議室